東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成２６年１０月１日　第４巻（第４号）

発行：東京都新宿区住吉町８−２０ 四谷チンゴビル２F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

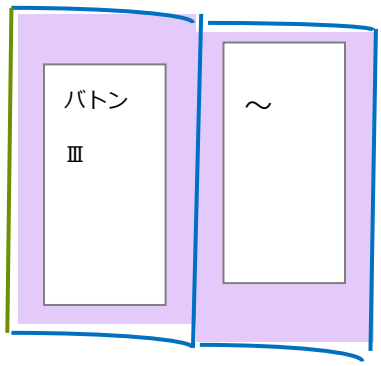
１．　現地活動報告　　協力員
２．　災害医療と被災者の保健　茅ヶ崎懇談会に参加して　現地責任者
３．　災害支援チームからのお知らせ
４．　災害支援ニュース発行のお知らせ
５．　あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」
を発行することとなりました。

２０１５年２月の発行に向けて

準備中です。

しばらくお待ちください！！



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」

については、“３．災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

１．現地活動報告

今回は、７月から８月の期間で活動に参加してくれました「協力員」の活動報告を上げます。
北海道から高知県、そして神奈川県。宮城県からも切れ目のない支援が続いています。
全国からの支援の継続は、復興につながる大事なバトンです。

協力員　小林　麻愉氏

新さっぽろ脳神経外科病院（北海道）
活動期間：2014/07/28～2014/07/30

石巻市の街の様子や私が実際に関わらせていただいた方々の様子を見ていると、街自体や被災された方々の多くが新たな生活を送っているという印象を受けました。今回訪問させていただいた在宅で生活されている方の多くは、震災後に出現した経済的問題や心理的問題に起因する生活課題は改善されつつあり、ソーシャルワーク介入は終結できる段階にありました。

しかし、震災前からあった様々な問題が生活課題として顕在化している場合、長期間のフォローを要するであろう印象を持ちました。そのような場合、今後現地協力員がどの段階で、どこへ支援を引き継いでいくのか、見極めていく必要があると感じました。

訪問中、津波にのみ込まれた方のお話を伺い、私には想像もつかないような壮絶な経験をされたのだということを改めて感じました。東日本大震災での被災経験は消えることはなく、それでも新たな生活を送っている皆さんから、人間の強さや支えあうことで生まれる強さを感じました。この経験を私自身のソーシャルワーク実践に生かさせていただきたいと感じました。

メッセージ

私は、活動を開始する直前まで、自分には何が出来るのだろうという不安や心配が強くありましたが、一件目の訪問をした時点で、普段通りのソーシャルワーク実践を行えば良いのだということに気付き、ソーシャルワークの普遍性を感じました。何か特別なことをするのではなく、普段通りの実践を行うという気持ちで、多くの方が災害支援活動へ参加し、被災された方々が一日でも早く新たな生活を送れるようになれればと思います。

協力員　水溜　丹都子氏

神戸赤十字病院　（兵庫県）

活動期間：2014/07/28～2014/07/30

現地職員３人体制で、確実に新しい状況（今、必要なニーズへの対応）へ進みつつあることを実感しました。一方で、これまでの３年間の活動を締めくくる必要があり、単発の現地ボランテイアに出来ることもまだまだあるのだとわかりました。この３日間は、現地ボランテイア４名体制だったので、集中して動くことが出来たと思います。継続支援が必要かどうかの確認ケース 21 ケースに対応させていただき、約半数が終結可能と判断できました。全体的には、新しい生活が始まっていたり、状況を受け入れて前を向かれていたり、と被災者の方々ご自身が力を付けてきておられることを実感しました。ただ、復興住宅入居や自宅再建での生活の建て直しの流れに乗りにくい方々もたくさんおられるようで、個別支援に並行して、きめの細かい支援を地域で実行していくための活動に力を尽くされている現地職員の活動を、当協会として、しっかり支えていく責任を痛感しました。

メッセージ

石巻で生活再建に向けて様々な日々を過ごしておられる被災者の方にお会いすることと、個別支援と地域づくりをバランスよく活動されている実態を見せていただくことは、ソーシャルワーカーの「力」を実感する絶好の機会だと思います。

石巻の「ここ」知ってますか？

石巻市は昔から世界三大魚場のひとつ「金華山沖」の前兵として多くの豊富な魚介類を水揚げされていました。震災から、３年半がたち船や港、市場…養殖など再開してきました。この「食の宝庫」石巻をアピールしていくプロジェクトが発足しました。

“さかな”喰ふなら石巻

なんだか、気になるポスターもあります。

http://www.ishinomakimatinaka.com/sakanakuu/　　んでまず～　冨永

協力員　中山　礼奈氏

札幌西円山病院　（北海道）
活動期間：2014/07/30～2014/08/1

今回は北海道協会から３名派遣ということで、丁度先発者や他県の活動者と１日重なる期間があった為、不安感なく活動がスタートできました。フィールドワークの機会が初日からあり、被災地の現状を目の当たりにした際は、物凄い衝撃を受けましたが、この現実を受け止めなければ何も始まらないと思いました。同時に、天災の脅威や尊い命を犠牲にして残された教訓を次世代へ伝えていく必要があるとも強く感じました。関わったケースでは多くは同行訪問でしたが、復興住宅への入居支援や、仮設住宅での人間関係などのトラブル、震災からくる様々な生活課題を抱えるケースが散見されました。その中で、当協会で協力員として関わったケースが次の協力員らに引き継がれ、今回自分が担当することとなりました。地域を超えて、ＳＷの支援のﾊﾞﾄﾝが次々と渡されていることの素晴らしさも実感できました。今後の展開として、元々の地域課題に加え、新たな地域づくりをしていく上での課題をどのように解決していくか、また、災害から一定期間が経過し、どこまでが震災支援なのか、見極めていくことが今後必要なのではないかと感じました。

メッセージ

マスメディアを通じてしか知らなかった震災被害ですが、日本各地では様々な天災が今後も起きることが予測されます。今回の大震災で得た教訓を無駄にしない為にも、是非多くの方々に実情を把握して貰い、支援の在り方について身近に考える機会や、これからの準備をしてほしいと思います。

☆☆

協力員　千賀　賢子氏

高知県ＭＳＷ協会　（高知県）
活動期間：2014/08/04～2014/08/14

発災から３年５ヶ月を迎えるこの時期に協力員として参加しました。

活動内容としては①Ｉ期からの継続ケースへの定期訪問。②フィールドワーク。③地域イベントへのお手伝い。を行いました。

定期訪問では、これまでのケース記録を基に経過の確認や現状でのニーズについて面接を行いました。訪問先は発災当時のご自宅や仮設住宅と様々でご本人たちを取り巻く状況も変化がありました。しかし、みなさん当協会の訪問を待ってくださっている様子も感じられ以前のこともふまえながらお話を聞くことができました。

フィールドワークでは、河北・河南・女川・

雄勝などをたずねました。当時テレビで映し出された場所もそれ以外の場所も震災の影響を感じ自分自身が動揺し考えさせられることが多くありました。

そんな中でも住民の方のために活動している関係機関とお話することで少しずつではありますが地域を支援する体制が動き出していると感じることができました。

季節がら夏祭りのお手伝いをする機会がありましたが「祭り」に込められた意味を模索しながら地域活動を行うみなさんにお会いできたことは貴重な体験でした。

今回の活動を通して発災から現在までソーシャルワークが継続されることの重要性を再認識しました。継続するために常に自分たちの活動目的や方法を確認する在駐スタッフのみなさんの真摯な姿勢にこの活動には教育的機能もあるのだと実感し参加させて頂いたことに感謝し活動を終えました。

メッセージ

「何ができるのか？」と不安に思う気持ちもありましたが在駐のスタッフのみなさんのおかげで具体的な活動ができました。
同時に「参加することに遅すぎることはない」との気持ちも強く持ちました。
自分のタイミングで参加を検討して良かったと感じています。

協力員　川端　毅氏

仁楡会病院　（北海道）
活動期間：2014/08/04～2014/08/06

震災から 3 年半近くが経過しているものの、街の至る所に震災の爪痕が散見され、まだまだ復興していない部分も多いことが分かった。住民の生活についても、一見落ち着いているように見えたが、実際に訪問することで住居や就労、その他の収入面など、未だに生活基盤が整わない方も大勢おり自治体の対応等今後の動向が気になった。

一方で、震災後公的機関をはじめ、あらゆる支援団体の危機的な介入が一段落し、時間の経過と共に復旧、または新たにできた社会資源へ繋がるなどして、被災者自身が自らの力で課題を解決している様子（力）がとてもよく伝わってきた。

協会としての活動は恒久的なものではなく、これからは、地域の中で醸成した資源にしっかりとバトンを引き継ぐことが最も重要な活動になっていくのではないかと感じた。

メッセージ

まさに、「百聞は一見にしかず」です。普段地域で活動している MSW も、そうでない MSW もソーシャルワークの神髄に触れる機会になると思います。

協力員　長谷川　敦氏

宮城県社会福祉事業協会　（宮城県）
活動期間：2014/08/20

［男の遊ぼう会］10 時から 12 時まで
宮城県協会有志 2 名で参加

全国のみなさんこんにちは、地元宮城県協会に所属していて、全国理事をしています、長谷川でございます。先月に続き、2 回目の参加です。

今回は、夏野菜カレー作りを通してのグループ活動でした。参加人数 5 名と受け入れスタッフ合わせて、14 名のカレー作りになりました。グループ内で離脱する参加者もなく、おだやかな時間で、前回に続き、1 つのグループの中でいっしょにカレー作りを楽しませていただきました。

参加者との談笑の中で、ハーブの話題になり、最近の脱法ハーブ等の話題・公営復興住宅の引越しの話題等も出て、引越しを楽しみにされている印象を受けました。また、ワーカーとして、何か専門性を発揮することはありませんが、前回に続き、心地よく参加させていただけていることがありがたく思えます。現地のメンバー・RCI の皆様に感謝申し上げます。

地元宮城も少しずつ、活動に参加しやすい環境作りに今後も努力してまいります。

協力員　菊池　知憲氏

総合南東北病院　（宮城県）
活動期間：2014/08/20

午前中、男の遊ぼう会に参加した。参加者と会話をしながら夏野菜カレー作りを手伝った。本会では参加主体の会の運営、活動の継続の課題があるが、中心となり会の運営を担う意欲のある人は現時点ではいなかった。参加者の能力や意欲を評価しながら関わることの必要性を感じた。午後は８月２５日が締め切りの復興支援住宅の申し込みをしていない方の訪問に同行。一人暮らしの男性。家族と疎遠。生活保護受給。要支援１で地域包括支援センター、訪問看護ステーションが介入。複数の機関が関わっているにも関わらず、手続きの支援がなされていないことに正直ショックを受けた。それぞれの機関が自分の範囲の役割しか果たさず、その情報を共有しないという縦割りの関係がもたらす問題を目の当たりにすると共に、もう少し踏み込んだ支援を行うという姿勢がソーシャルワーカーに不可欠なことであることを改めて再認識する機会となった。

メッセージ

石巻には支援が必要な人がまだまだいるというのが正直な印象です。3 回目の復興支援住宅の申し込みの確認をする時期等には多くの人員が必要になることが予測されます。

協力員　早坂　由美子氏

北里大学病院　（神奈川県）
活動期間：2014/08/27～2014/08/29

私は平成 23 年 4 月のローラー作戦以来のボランティア参加でした。その時との感想の違いは、発災当時は、被災地の方々の家族や知り合いの命を奪ったこと、生活を失ったことの痛みを一番感じたのですが、今回は住まいを失ったこと、仕事や生きがいを失ったことの悲しさ、辛さを感じました。活動の 1 日目はアルコールに関する講演会を聴きに行きました。アルコールの問題が被災地で問題になってきているとのことでした。それに加えて私の印象ではパチンコ屋が市街にたくさんあり、そこに平日の昼間に車がたくさん止めてある様子から、アルコールやパチンコと言った現実逃避できるもので時を過ごしている、生活を再建し切れない被災者の方々の存在を感じました。2 日、3 日目は現地スタッフの方の仮設住宅訪問に同行させていただきましたが、仮設という環境に年単位で住まわなければいけない被災者の方々の心労の大きさを知りました。現地スタッフの 3 人が行っている支援は、複雑な問題を抱えているクライエントに寄り添うというソーシャルワーカーの原点のような支援で、うらやましく思い、3 人で前向きに取り組んでいる姿に勇気づけられる思いでした。

2．災害医療と被災者の保健　茅ヶ崎懇談会参加

畑中氏が講師として出席

６月下旬、協会事務所に世話人の飛田氏が直接尋ねてこられました。
中川事務局長が訪問の意向を伺い、そこから「現場にこだわり、周辺が見える方」という飛田氏の希望を受け入れて笹岡統括が畑中氏を講師として推薦しました。

石巻現地責任者　畑中　良子氏

平成 26 年 6 月下旬、神奈川県茅ヶ崎市の被災者ケアに関心を持つ、官民の関係者の自主懇談会を主催される方から当協会に参加依頼が届いた。
この自主懇談会は年３～４回（不定期）、被災地体験者をゲストにお願いして、3.11 被災者支援と湘南の防災について、今、行うべきことを具体的につかむための懇談を行っておられるとの事であった。
構成会員は、障がい関係者（発達障がい・精神障がい・視覚障がい・聴覚障がいと時々下肢障がいの親や施設関係者）と、茅ヶ崎市行政（高齢者・障がい者・保健医療関係職員）・県保健福祉事務所・高齢者包括支援センター

職員と、高齢者訪問介護業者さん、市社協さん・県特別支援校教員がたまに参加され、各自が勝手に勉強して帰るという場という事だった。参加者の要件としては、「ケア関係者」という事が前提だ。
そこで、今回は石巻の現状について懇談を行った。応急仮設、民間賃貸仮設の入居者が平成26年8月末時点で約24,500人いる事を伝えるとみなさん、驚きの表情だった。東日本大震災関連の報道が減り、被災地の現状が伝わっていない事が分かった。災害が発生した場合に要援護者と呼ばれる方々をどのように把握し、支援するのか、について茅ヶ崎市では行政と市民団体が一緒に検討しているとの事だった。「災害対策基本法」に基づき避難行動要支援者名簿の作成や活用方法について検討されていた。名簿があるのは当然だが、それが民生委員を始め、活用する側の人間が取扱い方法になれていないと意味がない、という事や、また、発達障害等を持つ方は名簿に載らない(自ら載せない)人もおり、住民の安全の把握が難しいとの話も出た。
『日常に出来ない事は非常時にはできない。』これは誰もが思っていることであった。民生委員さんが名簿を活用できるようにするには普段、どのような情報を共有すれば良いか？などが今後、検討課題となった。
今回、懇談会に参加させてもらい、被災した県ではまだまだ課題が残っているが、他の地域には情報が流れていない事を感じた。今後の防災対策のためにも現地で何が起こっているかを発信して、共有していく必要を感じた。

３．災害支援チームからのお知らせ

【１．協力員募集】

現　　地

現在、１日にあたり上限２から３名で募集しております。
現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。
活動日程つきましては下記のようにお願い致します。
期　間：　平日３日以上 、
受入日：　期間を満たす曜日　　（土、日、祝日は活動致しません。）
但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。
※　出発２日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。
今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事　務　所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが１～２ヶ月に１回でも構いません。
ご協力お願い致します。

【２．災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回予定　：　１０月Ｘ日

【３．書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年９月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。
（注文用紙はホームページからダウンロードできます）
バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45
バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【4.facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL
http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。
URL
http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

4. 災害支援ニュース　次回発行のお知らせ

発行予定は 11 月 20 日です。

5. あとがき

災害支援チーム事務局から

担当　冨永

半年振りに、石巻に行きました。現地職員でいた 1 年が、つい最近のようにも思えたり・・・ずいぶん時の経ったことに町並みをみて感じたりしました。復興住宅の建設は、まだまだのようです。でも、協力員や現地職員の活動が石巻で生活している方に多くの力とな

っているのを耳にするたび、心強く思いました。

石巻の言葉は、本当に優しくて大好きです。そのひとつ「やっぺす！」です。これは、『やろう！』という意味です。なんだか、暖かくって元気がでます。

さあ、もう少し　やっぺし！！

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 26 年 10 月 1 日第 4 巻 4 号
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局